

2021年8月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年7月12日

上場会社名 株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス
 コード番号 2927 URL <https://www.ams-life.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅山雄彦
 問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 南方茂穂

TEL 054-281-5238

四半期報告書提出予定日 2021年7月15日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年8月期第3四半期の連結業績(2020年9月1日～2021年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年8月期第3四半期	14,495	24.2	1,916	143.0	1,907	142.8	1,359	207.6
2020年8月期第3四半期	11,673	4.5	788	5.9	785	8.8	441	33.8

(注) 包括利益 2021年8月期第3四半期 1,402百万円 (207.9%) 2020年8月期第3四半期 455百万円 (27.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年8月期第3四半期	97.89	97.38
2020年8月期第3四半期	31.42	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年8月期第3四半期	32,879	12,203	34.7
2020年8月期	18,548	10,463	56.4

(参考) 自己資本 2021年8月期第3四半期 11,399百万円 2020年8月期 10,463百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年8月期		10.00		10.00	20.00
2021年8月期		12.50			
2021年8月期(予想)				15.00	27.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年8月期の連結業績予想(2020年9月1日～2021年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,000	32.7	2,100	92.0	2,100	90.9	1,400	106.9	101.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1 社 (社名) 株式会社さいか屋、除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年8月期3Q	14,144,720 株	2020年8月期	14,144,720 株
期末自己株式数	2021年8月期3Q	295,012 株	2020年8月期	81,012 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年8月期3Q	13,884,199 株	2020年8月期3Q	14,063,733 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信の添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

わが国の経済は、総務省が今年7月6日に発表した5月の家計調査によると、2人以上世帯の消費支出が前年同月比111.6%と増えており、3カ月連続プラスが続いている状況にあります。

このような状況の下当社グループでは、経営の多角化と新業態への進出による規模の拡大と企業体質の強化を図り、株式市場における当社グループの企業価値の向上を目的として、今年5月26日に株式会社さいか屋を、今年6月1日に株式会社なすびを連結子会社化いたしました。業績につきましては、引き続き海外部門が好調を維持し、第3四半期連結累計期間では同部門の売上高が前年同期比277.6%と記録的な増収となったほか、通信販売部門・卸販売部門・医薬品事業も好調を維持したことにより、第3四半期連結累計期間の連結売上高は14,495百万円（前年同期比124.2%）と過去最高になりました。損益面につきましては、増収に伴う増産により、効率的な生産ができ、粗利率が向上し、売上総利益が前年同期比137.6%となりました。また、医薬品事業を営む子会社本草製薬㈱の黒字化が寄与し、営業利益は1,916百万円（前年同期比243.0%）、経常利益は1,907百万円（前年同期比242.8%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,359百万円（前年同期比307.6%）となりました。売上高及び各利益とも、第3四半期連結累計期間の過去最高を記録しました。

第3四半期決算発表に先駆け、今年7月2日付で、「通期連結業績予想の上方修正に関するお知らせ」「期末配当金の増配に関するお知らせ」を開示しております。

事業別の状況

事業別の業績を示すと、次のとおりであります。

セグメント	事業部門	2021年8月期第3四半期	
		売上高（百万円）	前年同期比（%）
ヘルスケア事業	OEM部門	6,532	101.5
	海外部門	3,743	277.6
	通信販売部門	1,258	118.3
	卸販売部門	550	119.2
	店舗販売部門	1,122	87.8
	その他	140	152.7
	計	13,347	125.0
医薬品事業	—	1,148	115.7
合計	—	14,495	124.2

(ヘルスケア事業)

・OEM部門

コロナ禍において、消費者の巣ごもり需要増と健康意識の高まりが相まって、特に通信販売事業を営む顧客において、青汁や乳酸菌製品等の受注が好調を維持いたしました。さらに、運動不足によるコロナ太りの問題が顕在化する中で、腹部の脂肪を減らす等のダイエットに結び付く訴求ができる機能性表示食品も好調に推移いたしました。その結果、当部門の売上高は前年同期を上回りました。

・海外部門

当部門は、越境EC向け製品の受注が増加したことに加え、既存顧客において美容商材の受注が大きく伸びました。その結果、当部門の売上高は前年同期比277.6%と記録的な増収になりました。

・通信販売部門

TVショッピング、新聞等の広告出稿を行い、新規顧客の開拓が順調に推移いたしました。新規顧客へのフォロー及び休眠顧客の掘り起こしを強化し、リピート率の向上に努めました。その結果、巣ごもり消費による受注増ならびに昨年9月に出店した越境ECの中国天猫（Tモール）での受注も加わり、当部門の売上高は前年同期比118.3%となりました。

・卸販売部門

通信販売事業を営む顧客からの受注が好調に推移いたしました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により滞っていた商談状況が徐々に改善し、機能性表示食品の受注が増加いたしました。その結果、当部門の売上高は前年同期比119.2%となりました。

・店舗販売部門

今年3月に基礎化粧品『ANANDA』シリーズ、今年5月に『燕の巣サプリメント』を上市し販売を強化いたしました。機能性表示食品『RICHルテイン25』が好調な売れ行きとなったものの、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発令に伴い、百貨店の臨時休業等が響き、当部門は苦戦いたしました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高13,347百万円（前年同期比125.0%）、営業利益2,293百万円（前年同期比189.2%）（全社費用調整前）となりました。

(医薬品事業)

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品につきましては、重点販売製品として位置付けている自社製造、医療用ジェネリック医薬品『ピムロ顆粒』（下剤）、生活習慣改善薬のジェネリック医薬品『タダラフィル錠』『フィナステリド錠』『シルденаフィル錠』が順調に売上を伸ばしたほか、一般用医薬品のOEM受注が増加した影響が加わり、利益面において安定的に黒字が出せる体制となりました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高が1,148百万円（前年同期比115.7%）、営業利益93百万円（前年同期比1,469.9%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ4,293百万円増加し、14,302百万円となりました。この増加要因は主として、売上代金及び注文代金の入金が増加したことや、(株)さいか屋の企業結合により、現金及び預金が2,850百万円増加したことに加え、企業結合の影響等により、商品及び製品が674百万円、流動資産のその他が380百万円、原材料及び貯蔵品が305百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ10,037百万円増加し、18,576百万円となりました。この増加要因は主として、(株)さいか屋の企業結合などが影響し、土地が4,756百万円、建物及び構築物（純額）が2,903百万円、投資その他の資産のその他が1,497百万円、のれんが914百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ7,906百万円増加し、14,110百万円となりました。返済期限が1年以内に到来する長期借入金から固定負債から振替られたことや、企業結合の影響により、短期借入金が3,208百万円増加したほか、原材料の調達増加や企業結合の影響により、支払手形及び買掛金が1,720百万円増加しました。さらに、注文代金の前受金の増加や企業結合により、流動負債のその他が1,388百万円増加したことに加え、企業結合の影響等により、商品券回収損失引当金が624百万円、商品券が526百万円、未払法人税等285百万円増加しました。これらが流動負債の主な増加要因であります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ4,684百万円増加し、6,565百万円となりました。この増加要因は主として、企業結合などが影響し、長期借入金3,956百万円、退職給付に係る負債が314百万円、固定負債のその他が251百万円、資産除去債務が162百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,739百万円増加し、12,203百万円となりました。この増加要因は主として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が1,045百万円増加したことに加え、企業結合により、非支配株主持分が743百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本日発表の通り、海外部門、通信販売部門、卸販売部門、医薬品事業が好調を維持し、第3四半期連結累計期間の経営成績が過去最高の大幅な増収増益となりました。また、第4四半期より、百貨店事業を営む株式会社さいか屋及び飲食店事業を営む株式会社なすびが連結子会社として加わります。これら状況を踏まえ、当社では2021年7月2日付で「通期連結業績予想の上方修正に関するお知らせ」の開示を行っており、2021年4月5日に公表した2021年8月期の連結業績予想から上方修正致しました。上方修正内容につきましては、既存部門の増収基調及び新規連結子会社が加わることにより、売上高を前回予想の180億円から210億円に上方修正しております。利益面につきましては、株式会社さいか屋を再建すべく、借入金利の見直しを行い、大幅な支払利息の削減策を実行したほか、販促費用の効率化に取り組んでおります。しかしながら、新たに加わる株式会社さいか屋及び株式会社なすびの両社は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け苦戦を強いられている状況であることから、この影響及び両社を連結することに伴うのれんの償却費用を折り込んでおります。これら要因により、営業利益は前回予想の18億円から21億円、経常利益は前回予想の18億円から21億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想の12億5千万円から14億円と上方修正しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,725,642	7,575,830
受取手形及び売掛金	2,190,325	2,217,971
商品及び製品	1,043,265	1,717,717
仕掛品	938,108	990,783
原材料及び貯蔵品	1,013,745	1,319,502
その他	160,728	541,034
貸倒引当金	△62,627	△60,573
流動資産合計	10,009,188	14,302,265
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,715,340	5,618,422
土地	3,895,432	8,652,176
その他(純額)	1,048,426	1,054,037
有形固定資産合計	7,659,199	15,324,636
無形固定資産		
のれん	—	914,115
その他	162,778	131,034
無形固定資産合計	162,778	1,045,149
投資その他の資産		
その他	730,837	2,228,017
貸倒引当金	△13,115	△20,839
投資その他の資産合計	717,721	2,207,177
固定資産合計	8,539,699	18,576,963
資産合計	18,548,888	32,879,229
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,009,287	3,729,289
短期借入金	2,866,009	6,074,108
未払法人税等	196,273	482,168
商品券	—	526,021
賞与引当金	170,100	288,186
商品券回収損失引当金	—	624,165
ポイント引当金	23,743	59,387
その他	938,927	2,327,233
流動負債合計	6,204,340	14,110,558
固定負債		
長期借入金	1,082,326	5,038,975
役員退職慰労引当金	195,858	196,449
退職給付に係る負債	439,568	753,920
資産除去債務	—	162,262
負ののれん	563	140
その他	162,322	413,484
固定負債合計	1,880,638	6,565,233
負債合計	8,084,978	20,675,792

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,131,839	2,131,839
資本剰余金	2,195,880	2,195,880
利益剰余金	6,238,981	7,284,369
自己株式	△59,314	△212,110
株主資本合計	10,507,387	11,399,979
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△59,684	△26,055
為替換算調整勘定	△2,023	8,874
退職給付に係る調整累計額	18,229	16,862
その他の包括利益累計額合計	△43,477	△318
新株予約権	—	60,258
非支配株主持分	—	743,518
純資産合計	10,463,909	12,203,436
負債純資産合計	18,548,888	32,879,229

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年5月31日)
売上高	11,673,283	14,495,207
売上原価	8,282,518	9,829,899
売上総利益	3,390,764	4,665,307
販売費及び一般管理費	2,601,985	2,748,360
営業利益	788,779	1,916,947
営業外収益		
受取利息	2,518	2,557
受取配当金	7,533	7,187
投資有価証券売却益	3,748	8,511
受取賃貸料	15,781	15,716
負ののれん償却額	422	422
役員退職慰労引当金戻入額	—	10,810
その他	9,591	8,324
営業外収益合計	39,596	53,530
営業外費用		
支払利息	25,080	23,111
投資有価証券売却損	563	13,439
その他	17,338	26,613
営業外費用合計	42,982	63,163
経常利益	785,392	1,907,314
特別利益		
固定資産売却益	175	—
補助金収入	4,096	—
特別利益合計	4,271	—
特別損失		
固定資産除却損	7,821	3,242
投資有価証券評価損	35,469	—
減損損失	—	365
賃貸借契約解約損	7,227	—
貸倒引当金繰入額	49,393	—
特別損失合計	99,910	3,607
税金等調整前四半期純利益	689,753	1,903,706
法人税、住民税及び事業税	272,973	610,270
法人税等調整額	△25,041	△65,709
法人税等合計	247,932	544,560
四半期純利益	441,821	1,359,146
親会社株主に帰属する四半期純利益	441,821	1,359,146

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)
四半期純利益	441,821	1,359,146
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,646	33,628
為替換算調整勘定	924	10,897
退職給付に係る調整額	—	△1,367
その他の包括利益合計	13,570	43,158
四半期包括利益	455,392	1,402,305
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	455,392	1,402,305
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年9月1日 至 2020年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	10,681,166	992,117	11,673,283
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	10,681,166	992,117	11,673,283
セグメント利益	1,212,091	6,380	1,218,472

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,218,472
全社費用(注)	△429,693
四半期連結損益計算書の営業利益	788,779

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	13,347,103	1,148,103	14,495,207
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	13,347,103	1,148,103	14,495,207
セグメント利益	2,293,231	93,788	2,387,020

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	2,387,020
全社費用(注)	△470,072
四半期連結損益計算書の営業利益	1,916,947

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

株式会社さいか屋の株式を取得し、同社及び同社の連結子会社2社を連結の範囲に含めたことに伴い、新たなセグメントである「百貨店事業」において、セグメント資産が11,504,946千円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

株式会社さいか屋の株式を取得し、同社及び同社の連結子会社2社を連結の範囲に含めたことに伴い、新たなセグメントである「百貨店事業」においてのれんを認識しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は914,115千円であります。